

# 千里の風

No. 5

2013年度歴史教育者協議会

全国大会・大阪

大会速報「千里の風」

編集・発行：現地実行委員会

## 全体会記念講演

# グローバル企業と国民国家を 広い視野から問うた内田講演



●斬新な問題提起で国民国家の解体について興味深く聞いた。しかし、世界がそのような動いていく中で私達はどう生きていくべきなのだろうか。歴史の守旧派になってはいけないが、国民国家の良い所は受け継いで生きていくことは可能なのではないか。（岡山・50代）

●全体会は総じて興味深く聞きました。内田先生のお話はあっという間に

過ぎてしまいました。おもしろかったです。（神奈川・20代）

●内田講演も真の「国民国家」と「グローバル企業」との対立を教えてくれて整理がついてよかった。（愛知・50代）

●今日のプログラムで良かったのは講談と内田講演です。もう一つは韓・中の方からの言葉です。講談は話し手としての魅力があった。内田講演は、あれくらいのアカデミックな内容は必要だと思うからです。ただ違った立場の人とのディスカッションも面白いと思います。（愛知・20代）

●記念講演、「題名」にひかれて（一日本社会はこれからどうなるかーに）参加してみようかなと思いましたが、私の勉強不足か、日本の将来に対して、少しは見通しが持てる話が聞けるかと思いましたが。講談はおもしろかったです。（大阪・60代）

●文化行事は全体会の時間割からして無理が感じられた。この時間、「地域実践報告」にあてたらと思った。「記念講演」は時宜にかなっていいテーマで内田氏の話は良かった。「朝日」のオピニョンの内容に感銘を受けたので生の声が聞け、参加して良かった。新しい歴史の見方「一国歴史主義」の提起はいい。（神奈川・70代）

●記念講演—現在おこっている企業のグローバル化によって国民国家（政治）の解体過程については良くわかりましたが、では、その為の多くの人々の生活が困難に陥っている現実をどうすればいいと言うのだろうか？解釈論としては、その通りかも知れないが、将来にとってあまりにも展望のない話で、青年が生きるための糧にならない話と思いました。歴教協大会の記念講演としては、ふさわしくなかったと思いました。（神奈川・60代）

●私自身、帰国子女の生徒が通う学校に勤めています。そんな中、内田さんの「グローバルな知性」についての提案、とても考えさせられるものがありました。今回の講演の内容を使って、生徒たちが自身の思想をどう自覚して、乗り越えることができるのか。「グローバルな知性」について私自身もしっかりと考え、生徒とともに学んでいきたいと感じました。（愛知・20代）

●現在の日本の教育（文科省）が結局のところは、財界の要求にこたえるために、教育機会をせばめるといった前代未聞のことをやっていることを改めて知ることができ、本当におかしな国だなあと強く感じました。また、一国史の限界を語られていたところは共感しました。各国史、隣の国どおしの見方を受け入れその思いを住ませながら、歴史を語り合い、現在、未来を語り合う社会を作っていきたいと思いました。（東京・20代）

## 大阪にぴったりの講談

●初めて講談を拝見しました。商人の街である大阪にぴったりの演目でたのませていただきました。内田樹さんの講演では、歴史認識の話が印象強く残っています。自分勝手に歴史をねじ曲げて解釈する勢力は対話することなど考えていない。事実や歴史認識の溝など意に介さず、自分の文脈に合わせようとする姿勢がどれだけ国内外に影響を与えているかと思いました。当日を迎えるまでに大変な準備をしてくられたと思います。良い大会になるよう、願っております。明日からの分科会楽しみです。（愛知県・20代）

●内田さんの記念講演については、賛同できない点があります。多国籍企業の目先の利益追求の暴走をすどく分析していることはすごいと思います。しかし、大企業の目先の利益追求の暴走では、日本の国民国家の経済も、社会も、文化も崩壊しますが、日本だけでなく、すべての国家、そして世界全体の経済も社会も崩壊させてしまうと思います。それに反して、大企業の横暴を規制し、人々の生存権、労働者の権利を守るために、世界中で人々が立ち上がる歴史があると思うのです。（埼玉・60代）

